

～墓・墓地についてのアンケート～ 「子どもに迷惑をかけたくない…」 約半数が、条件が許せば入りたいのは “永代供養墓”や“樹木葬墓地”！

リビング新聞グループのシンクタンクである株式会社リビング暮らしHOW研究所（所在地：東京都千代田区、代表取締役社長 中村史朗）では、全国の女性947人を対象に「墓・墓地」についてのアンケート調査を実施。散骨や納骨堂、樹木葬、宇宙葬と選択肢が増える中、女性たちは自分のお墓をどうしたいと思っているのか聞きました。

リビング暮らしHOW研究所 ウェブサイトはこちら⇒ <https://www.kurashihow.co.jp>

- 自分が入る予定のお墓は従来型の“家の墓”が約9割。
一方、条件が許せば入りたいお墓は「実家の墓」「夫婦墓」「共同墓」がトップ3。
形態では「永代供養墓」「樹木葬」「納骨堂など屋内墓地」が人気！

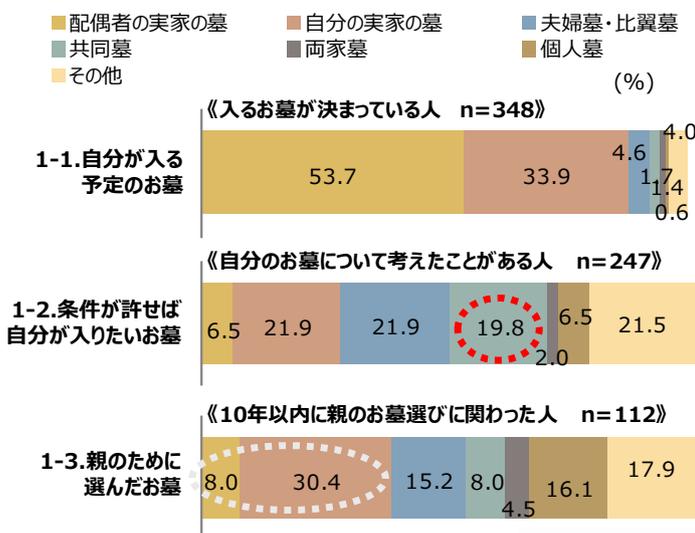
いざという時に「入るお墓が決まっている」人は全体の36.7%。これは年代と共に増え、60代以上では約6割に。入る予定なのは「配偶者の実家の墓」が53.7%、「自分の実家の墓」が33.9%。計87.6%が従来型の“家の墓”という結果になりました。形態も霊園や寺院墓地が約9割（グラフ1-1、2-1）。

一方、お墓が決まっていない人のうち、「お墓について考えたことがある」人は56.3%。この人たちが「条件が許せば入りたい」のは、「実家の墓」「夫婦墓」（各21.9%）や「共同墓」（19.8%）。「配偶者の実家の墓」は、6.5%と1ケタです。形態では27.1%が合祀墓、合同墓などの「永代供養墓」を挙げ、次に19.0%が「樹木葬」、13.0%が「屋内墓地（納骨堂など）」を希望すると回答しました。

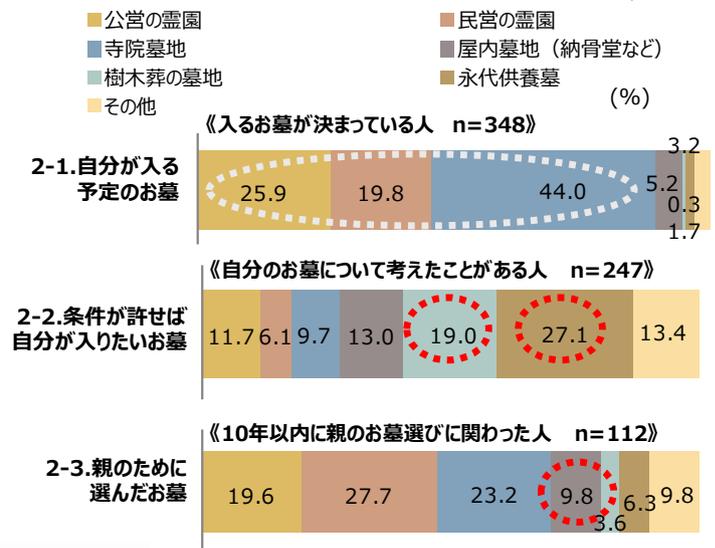
（グラフ1-2、2-2）。「共同墓」や「永代供養墓」を選んだ理由（フリーアンサー）では、「子どもに迷惑をかけたくない」「墓守をさせたくない」という声が目立ちました。

また10年以内に「親の墓」選びに関わった人が実際に建てたお墓では、「故人の実家の墓」「故人の配偶者の墓」など従来型の“家の墓”は38.4%。代わりに「個人墓」「夫婦墓」のウエイトが増し、形態も「納骨堂」が約1割と、新しいタイプが少しずつ頭在化しています（グラフ1-3、2-3）。

グラフ1. お墓のタイプ(誰と入るお墓か)



グラフ2. お墓の種類・形態



■ お墓選びで重視するのは「費用」「アクセス」「承継者が絶えた後の対応」がトップ3 ペット飼育中で子どものいない女性半数が「ペットと一緒にお墓に入りたい」

自分のお墓選びで重視するのは、まず「価格」や「管理費」など、費用のこと。3位に「子どもや家族の行きやすさ」、4位に「承継者が絶えた後の対応」が入りました（[グラフ3](#)）。

自分のお墓について考えるようになったタイミングは「親が亡くなった時」「親が高齢になったと感じた時」「お盆やお彼岸・お墓参りをした時」がトップ3（[グラフ4](#)）。60代以上は「親が亡くなった時」「節目の年齢になった時」「友人と話題になった時」、30代以下は「夫婦や家族で話題になった時」の割合がほかの年代と比べて高いという結果に。

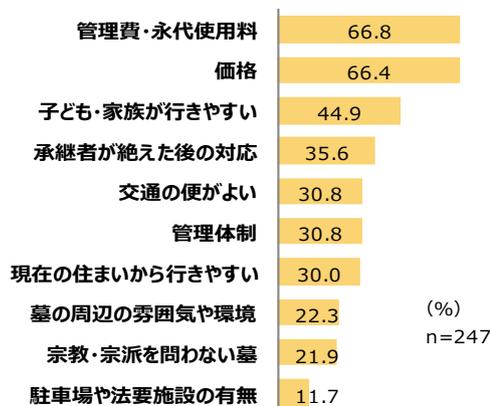
ペットを飼っている人は全体の19.7%。そのうち「ペットと一緒にお墓に入りたい」と答えた人は33.7%。子どものいない人では実に50.8%と約半数が、ペットと一緒に入れるお墓を希望しています。

■ 墓じまい・改葬について経験有+検討中は計16%、考えたり話したりのみの人も26%

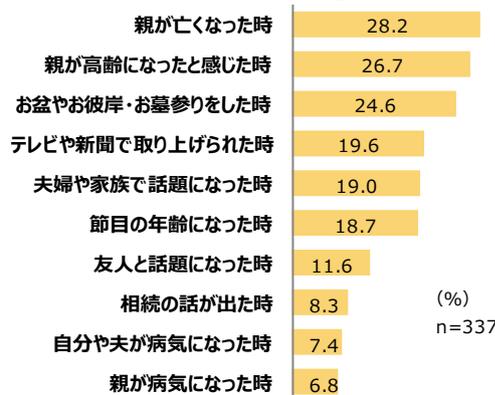
お墓に関して以前困ったこと、また今悩んでいること（フリーアンサー）では、「お墓を継ぐ人がいない」「お墓が遠く、年々お墓参りが困難になってきている」「費用や手続きの煩わしさなどがネックになって、墓じまいが具体的に進まない」など、切実な声が多数寄せられました。

遠くでお参りに行けない、守る人がいないといった理由で、お墓を片付けて敷地を返す“墓じまい”“改葬”については、「経験あり」「相談・検討中」が計15.7%（[グラフ5](#)）。「考えたり話したりはしているがまだ具体的ではない」という人も25.8%おり、墓じまい・改葬への関心の高まりが感じられます。

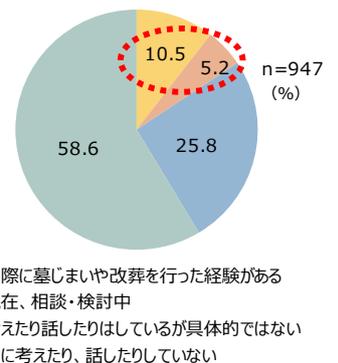
グラフ3. (自分のお墓について考えたことがある人)
お墓選びで重視するポイント(複数回答)
※全体の上位10位までを表示



グラフ4. (自分のお墓について考えたことがある人)
自分のお墓について
考えるようになったタイミング(複数回答)
※全体の上位10位までを表示



グラフ5. 家族や親戚で、墓じまいや改葬を実際に行ったり、話題にしたことはあるか？



女性は男性よりも平均寿命が長く、妻は夫より年下のことが多いです。つまり夫や自身のお墓を新しく選ぶのは、多くの場合、女性。樹々や花に囲まれて眠りたいという、ロマンチックな願いをかなえる樹木葬が人気なのもうなずけます。今後、狙うべきは、女ゴコロに響く墓。その新しい提案や訴求には、さらなる可能性があります。

【調査概要】 期間：2018.09.05～09.09 / サンケイリビング新聞社公式サイト「リビングWeb」「あんふあんWeb」でのアンケート / 調査対象：女性 / 有効回答数：947人（平均年齢：46.7歳）

【回答者プロフィール】 独身24.4% 既婚75.6% / 専業主婦37.2% フルタイム31.9% パート・アルバイト24.7% そのほか6.2% / 30代以下30.5% 40代31.3% 50代21.6% 60代以上16.6% / 子どもがいる63.4% いない36.6%

詳細レポートはリビングくらしHOW研究所サイトで公開 <https://www.kurashihow.co.jp/markets/13826/>
日々、Facebookで女性とくらしのミニデータを更新中 <https://www.facebook.com/kurashiHOW/>

■ 本リリースに関するお問い合わせ先

株式会社リビングくらしHOW研究所 担当：湖内

TEL：03-5216-9420

FAX：03-5216-9430

E-mail：info@kurashihow.co.jp